

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月26日

【評価実施概要】

【評価実施概要】

事業所番号	2375200652		
法人名	株式会社 福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑 師勝		
所在地	北名古屋市熊之庄東出42-1 (電 話) 0568-26-5911		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7 A		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年7月26日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 8人, 非常勤 12人,	常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 400 円	
	夕食 400 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成19年6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.2 歳	最低 75 歳	最高 97 歳		
協力医療機関名	いぶき野クリニック・北里クリニック・名鉄パレ歯科医院・しかつ眼科クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昭和58年に設立された訪問入浴サービス事業から始まった「福祉の里」のネットワークを持つグループホームで、ハード面でも最新の設備が整っている。北名古屋市主催による「認知症等普及啓発地域シンポジウム」では、ホームから職員が2人、パネラーとして参加した。職員の中に看護師2名、協力医とも24時間対応してもらえる体制であり、職員の気持ちを聞きながら、家族とも話し合い、「みとり」までしていきたいと考えている。一人ひとりを大切に、優しい穏やかな介護に努めている。職員の向上心も高く、家族とのコミュニケーションもよい。家族アンケートからも対応のよさがうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 場所間違いでは「トイレ」の表示を付けた。現在、「湯」の暖簾を探している。モニタリングでは、月1回ミーティングを持ち、担当スタッフが記入しケアマネが記録している。チームケア会議は、第3金曜日に定例ミーティングをしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ミーティングでサービス評価の意義とねらいについて話し合い、全員で自己評価に取り組んだ。休みの日にも自主的にホームに来て、ガイドラインを見ながら自己評価に取り組んでいた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 5月に第1回、運営推進会議を開催した。初回では、法人やホームについて説明した。また、メンバーが参加しやすいよう、事前に日程や時間も決めた。外部評価の報告や認知症について理解してもらえるようビデオを上映した。会議の議事録は、全職員が目を通すよう連絡帳に書き、ミーティングでも報告している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族とのコミュニケーションを心がけ、来訪時には積極的に話しかけ、要望や不満や苦情が言いやすい環境づくりに努めている。家族からでた意見はミーティングで話し合い、個別に報告している。年1回の個別懇談を通して、意見を聞いたり、3カ月に一度郵送する「生活状況のお知らせ」に家族に意見を記入してもらっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域で開催される祭に参加したり、催し物に招待されたりと、地域との交流に積極的に取り組んでおり、地域の一員として清掃活動にも参加している。また、地元のボランティア(マジック、紙芝居、お茶、大正琴、ギター演奏等)の定期的な訪問もある。近所の喫茶店とは、理解や協力してもらえる関係ができています。

福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりを大切に、いつも自分らしく暮らせる生活を基本とします」「自己決定・自立支援・個性を大切にします」「家族と地域の連携を大切にします」「権利を守ります」の理念は開設時につくられたものであるが、地域密着型サービスの役割が反映された内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務所に掲示してあり、朝礼で理念を唱和している。管理者からは言葉かけやプライバシーについて常に話がされ、具体的な例をだしながら振り返っている。職員は理念を意識し、業務優先でなく入居者優先のケアを提供できるよう、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開催される祭に参加したり、催し物に招待されたりと、地域との交流に積極的に取り組んでおり、地域の一員として清掃活動にも参加している。また、地元のボランティア（マジック、紙芝居、お茶、大正琴、ギター演奏等）の定期的な訪問もある。近所の喫茶店とは、理解や協力してもらえる関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	朝礼やミーティングでサービス評価の意義とねらいについて話し合い、職員は理解している。休日にも自主的にできて、自己評価に取り組んだ。前回の報告会には、殆どの職員が参加しており、改善点については、全職員で話し合い、殆どの課題は改善されている。管理者、職員が一丸となり、評価をサービスの質の確保に活かしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月に第1回、運営推進会議を開催した。初回では、法人やホームについて説明した。また、メンバーが参加しやすいよう、事前に日程や時間も決めた。外部評価の報告や認知症について理解してもらえるようビデオを上映した。会議の議事録は、全職員が目を通すよう連絡帳にはさみ、ミーティングでも報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の地域ケア会議や現任研修会等に参加しており、介護保険課の担当者と会議の中で話しをする機会がある。運営推進会議が始まり、市に訪問する機会も増えてきている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事や日常の様子等、入居者の写真を掲載した「遊楽苑通信」とお小遣い帳を毎月、家族に送付している。また、3カ月毎に健康状態を記した「生活状況のお知らせ」も送付している。各ユニットに、職員の顔写真を掲示し、職員の紹介をしている。家族の状況に応じて、来訪時や電話で入居者の状況について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを心がけ、来訪時には積極的に話しかけ、要望や不満や苦情が言いやすい環境づくりに努めている。家族からでた意見はミーティングで話し合い、個別に報告している。年1回の個別懇談を通して、意見を聞いたり、3カ月に一度郵送する「生活状況のお知らせ」に 家族に意見を記入してもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はほとんどない。異動や離職の場合は、入居者にきちんと説明し理解してもらうように努めている。この1年間は離職した職員はおらず、定年で退職された方のみであり、その際、家族には来訪時や個別懇談の時に報告した。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修として、入社時、リーダー研修、ケアマネ研修が実施されている。ホーム内でも勉強会を毎月、実施している。また、市主催の現任研修や愛知県グループホーム協議会等の外部研修にも参加している。研修内容は全職員が共有できるよう、ミーティングで報告したり研修ノートを記入している。日常の中でも、管理者や主任は職員の状況に応じて指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム協議会に加入しており、相談委員会に参加し、意見交換をしている。他のグループホームから見学にくることもある。常に変化を感じ取り、新しいものを取り入れていきたいと考えており、地域ケア会議や愛知県グループホーム協議会の交流を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用に至るまで、本人の視点での対応を大切にしている。家族と共に何度か来てもらい、職員は本人、家族と会話をしながら、他の入居者や雰囲気馴染めるよう希望があれば体験利用をしてもらっている。職員が隣に座り、声をかけながら、本人が不安なく過ごせるように努めている。また、人間関係も築いていけるようにサポートしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にする中で、入居者に寄り添う事を基本にしている。入居者を人生の先輩として敬い、敬語だけではなく、親しみを込めて、時には孫のように、時には友人のように接することもある。入居者の得意な事には参加してもらい、職員は入居者から教えてもらうことも多い。お互い様という気持ちや感謝する気持ちを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の視点に立ち、自分がされたら嫌なことはしない、意思が確認できない中で職員が誘導するのはやめようと、職員同士で話し合った。把握が困難な場合は、本人にとって何が一番大切か職員間で話し合っている。コミュニケーションを大切にし、日常の会話の中で、希望や意向をさりげなく聞き取り、実現できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、毎月のモニタリングの結果や日々の記録、ミーティング等から、入居者の状態を職員に確認し、作成している。本人や家族の意向を取り入れ、好きなこと、得意なこと、できることを継続してもらえるようケアプランに反映させ、支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、担当職員がミーティングでモニタリングを行っている。変化が生じた場合には、その都度、見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を受けており、看護師が2名、交代で入居者の健康状態をチェックしている。入居者や家族の状況、希望に応じて通院介助を行っている。また、入浴は訪問入浴の方法で対応する事もある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関が、かかりつけ医となっているが、希望があれば、今までのかかりつけ医への受診も可能である。その場合、通院は家族が付き添っているが、状況に応じて職員が対応している。協力医の往診が月1回あり、24時間連絡可能な体制となっている。家族には、事前に往診結果の報告方法について、確認をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは個別懇談にて、重度化や終末期についての話し合いをしている。医療行為が必要な場合には、協力医と相談し連携を図り、家族、看護師、職員での話し合いの場を設けている。また、その内容をミーティングや連絡帳にて全職員で共有している。ホームとしては、できる限り最後まで見ていきたいと考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩である事を忘れず、言葉遣い、対応等にも十分気をつけ、個人を尊重している。入居者本人が自分の記録を見たいという希望もあり、文書の書き方にも注意を払っている。記録等の個人情報は勿論、知り得た事は守秘義務である事を、ミーティング等で確認している。入職時には、誓約書を書いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、必ず声をかけ、入居者のその日の体調や気分、ペースを大切にし、どうしたいのか本人に決定してもらっている。一人ひとりを主体とする生活支援を心がけ、強制はしない。職員は、入居者と一対一で話せる時間をとり、希望を聞いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者の意見を取り入れ作成している。入居者と職員と一緒に、食事の準備や野菜を切ったり、盛り付け、味付け、テーブル拭き、おしぼり配り等、入居者の状況に合わせ、行っている。食事の話もしながら楽しく食べて、片付けも職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には2日に1度の入浴となっているが、できる限り入居者の希望に添えるようにしている。ゆっくり入浴してもらえよう、浴槽の湯は一人ひとり交換している。角度調節可能なシャワーは、車イスに座って三方向からシャワーを浴びる事ができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者ができることは可能な限り一緒に行っている。掃除、家事、畑仕事、生花、外出等、自分らしく暮らせるよう、一人ひとりに合った役割を見出している。入居者の趣味も継続してもらえよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿うのはなかなか難しいが、天気の良い日などは苑庭のベンチでおやつを食べたり、公園や近所のスーパー、喫茶店等に気分転換に出かけるようにしている。訪問時には、駐車場の広いスペースを活用し、椅子に座りながら体操している様子が見られた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は職員の目が行き届き、危険を回避できる時は開放されている。天気の良い日には開放している事も多い。居室の鍵は原則的に日中はかけていない。夜間は入居者の希望がある時のみ施錠する事がある。入院中の施錠希望者は多い。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	様々な時間帯を想定した避難訓練を入居者と共に2～3カ月に一度実施している。地域の方への働きかけは行っていない。災害時における備蓄品の準備は保管場所の確保が難しく準備はされていない。	○	今後は運営推進会議などで地域の人々の協力が得られるよう働きかけや、飲料水や食糧等について備蓄されることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表があり、毎食後、摂取量を記入している。希望があれば主食をパンに変更するなど食事形態を工夫し、摂取できるようにしている。できるだけ自分で食べる事ができるよう、声かけ、見守りをしている。栄養バランス(カロリー)については見直していきたいと考えている。	○	栄養バランスについては、専門職からのアドバイス等を受けていくことを考えていることから実現に向けた取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、自然採光が出来るように工夫してあるので、明るく開放感がある。対面式のキッチンのため、料理をしながら入居者と会話をすることができ、入居者は料理のにおいや音を感じる事もできる。テーブルには季節の花を飾ったり、入居者が制作した季節感をあふれる作品が飾ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの家具はなく、使い慣れた物を持ってきてもらっている。その人らしく、居心地よく、安心して過ごせる部屋になっている。マイナスイオンの出るエアコンは消臭機能も付き、温度調節は各部屋でできる。ナースコールも設置されている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。